

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和2年12月23日(水) 第2委員会室
2. 出席委員 吉方明美委員長 近藤久子副委員長 谷口隆明 坂本義明 徳永泰臣 五島誠
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 丸飯龍太議会議務局主事
5. 説 明 員 なし
6. 委員外議員 なし
7. 傍 聴 者 なし
8. 会議に付した事件

- 1 教育条件整備について(学校適正規模・適正配置ほか)

午前9時58分 開 会

○吉方明美委員長 ただいまから教育民生常任委員会を開きます。

- 1 教育条件整備について(学校適正規模・適正配置ほか)

○吉方明美委員長 きょうの議題は御手元のレジュメにありますように教育条件整備についてということで、この件についてはこの2年間、このメンバーでいろいろ視察に行ったり執行者との意見交換をやったりとかいうことで過ごしてきましたが、今回、任期中のまとめということで、3月議会でその報告をする必要があるのも、これまで審議してきた過程などをもとに課題なりを次の委員会へ引き継ぐためのまとめということで、それぞれ意見を出していただきたいと思います。昨年、山口県へ行ったり、地元の学校の視察へ行ったり皆さんが感じてきたことを中間報告させてもらいました。その中へ執行者に対する提言ということで何点か項目を出して報告したわけなのですが、それに基づいて先日、教育委員会から説明をいただいたところです。そういったところのまとめを先日、たたき台ということで皆さんへお渡ししております。これは一応参考資料ということで、これまでやってきたことの課題についてまずは皆さんから出していただいて、そのあと今後に向けてどういったことを解決していくべきかということも出していただきたいと思います。まず、2年間この件についてやってきて、皆さんいろいろ感じておられることがあろうと思います。執行者の計画、またその計画に基づいて地域の反応、地域の声、そういったものの中で、何が課題であったかということランダムになろうかと思いますが、皆さんから出していただきたいと思います。執行者は、計画に基づき丁寧な説明をして理解を得ると言いながら地元と協議をされておりますが、その中でいろいろ課題も出ているだろうと思います。この委員会として、また皆さん委員として何が問題だったかということを出していただきたいと思います。

○谷口隆明委員 2年間のまとめということなので、これまでやってきたことを整理するということだと思う。ですから、まとめ方とすれば中間報告はあるのですけれど、この2年間、閉会中審査に決定してやってきたことを時系列的にもう一度、委員会の開催日とか内容、それから視察の内容を挙げて、

これがこの2年間の活動だということと、それに基づいて今言われたいろんな時点での提言と執行者の対応をまとめる。だから、新しいことを考えなくても、これまでやったことをまとめて、さらにその中で残っている課題を何点か引き続きということにすれば、ここで新たに皆さんに意見を求めてもなかなか大変なので、これまでしたことを素直にそのまままとめたらいいのではないかと思います。

○五島誠委員　　言われることはわかるのですが、この2年間やってきて、先ほど委員長おっしゃられたように、一旦、委員同士の意見交換ではないですが、そういったところも一定程度して、行ったことについて委員間の討議はこれまでやってきていない部分だと思うので、最後にまとめるに当たっては大いに議論をしてまとめるのがいいのかなと個人的に思うので、委員長がおっしゃった進め方でいいかなと感じております。

○吉方明美委員長　　これまでの経過については、中間報告までの段階を時系列に一回報告しているので、それを踏まえて、これは正規の常任委員会の中で議論するか、または非公式で委員間討論に切り替えるかということになります。

○五島誠委員　　非公開にする必要はないと思うし、この2年間やってきた中で見えてきたものが多分それぞれいろいろあると思うのですよね。それを出し合って最後一つの意見に集約するというのではなくて、意見の中から最後また大きなまとめみたいな形にすれば問題ないかなと思うので、公開のままでいいのではないですか。

○吉方明美委員長　　副委員長、どうですか。

○近藤久子副委員長　　要は、これまで2年間やってきて、委員長報告もやってきた。ただ、もう少し議員間の議論とか討議が必要ではないかというのが五島委員の御意見でした。谷口委員もおっしゃったのですけれども、新たにものすごい提言をまとめるということではないのですけれども、これまでの委員会の言葉を整理するための補完的な委員会になればいいかなと思います。2年間もやってきたわけですから、もう少しこういう言葉を入れたらどうかとか、このことについて我々はどう考えるのかというものが新しく出るかもしれませんので、そういう委員会になればなと思うのです。まとめは何度もやってきましたので、それは変えることはありませんし、変えてはいけない部分だと思うので、それプラスのものがあればと思うのですけれど。

○坂本義明委員　　中身としては理解できる。進めていることについて異議があるわけではないけれど、例えば、ある程度小学校の適正配置が進みかけたところで、小学校は小学校としてのやり方もあると思うのですけれど、今度は中学校の問題もあって、話を聞きながら行け進めだけではなく、物によったら立ちどまって考えてもらわなければいけない地域もあるのではないかなと思う。例えば、まだ話には出ていないけれど、中学校の話とかについてのまとめではないからその先の話までするのかしないのか。今までやってきたことについてだけで進めていくのか。そこから先のことについても委員会としての意見交換をしておくべきなのかなということも議題の一つとして取り上げる必要もあるのではないかなと思うのですけれど、それはどのように取り扱いますか。

○吉方明美委員長　　来年4月、第1グループがいよいよ実施されるわけですが、いろいろ統合するに当たって吸収合併の形と、せんだっては口和のように新しい学校をつくろうというイメージを持ちながら両方の地域がまとまって実施されようとするスタイルもある中で、今から第2グループ、第3グループを進めるに当たって、こういう進め方がいいのではないかなとかいうことを次へ申し送りするよう

な形でまとめたらどうかと思うのですけれど、どうですか。教育委員会は丁寧に説明して地元へ理解を得てということとずっと繰り返しながら最終的に強引に執行者の計画に近づけるような方法をとっておられるのですけれども、この間、教育部長がおっしゃったように、必ずしも地元が反対だというのを無理やりには推し進めないという言葉もあったので、ならば今後の第2グループの統合についてはどうあるべきかということ提言みたいな形でまとめられればいいかなと思うのですが、いかがでしょう。

○徳永泰臣委員 皆さん今まで言われたのでほとんどないのですけれども、中間報告も行ってあります。それからまた意見交換はもう少しこれからもやっていく必要があると思いますので、意見交換をやりながら第2グループ、第3グループについての提言も入れ込んでやっていく必要があるのではないかと思います。とにかくもう少し意見交換をやったと思います。

○吉方明美委員長 委員同士の意見交換ですね。

○徳永泰臣委員 やって見たらどうかと思いますが、どうでしょうか。

○吉方明美委員長 よろしいかと思います。順不同になっても構わないので、いろんな意見を出し合ったらどうですか。

○五島誠委員 この間、先ほどおっしゃったように、第1グループが一旦この4月でできないところもあればできるところもあるという形になってきますけれど、教育委員会の目線に立って言うと、スタートのところがつまずいたというのが正直なところで、最初、結構具体的に細かく新聞報道で計画の第一報があって、特にそこに該当する小学校区の住民の皆さんや保護者の皆さんからしたら上から降ってきたような形になってしまった。教育委員会が丁寧に説明をして納得いただけるようにすると申されていますけれども、最初のところでそういった形でこうしますというような形でおりにきた部分でブロックがかかってしまっている。本当にどうしていかないといけないのかという土台の議論にたどり着くまでに統合に賛成か反対かみたいな形になってしまって、なかなか本当の意味で子供たちにどういう教育環境を整えるのかというところがなござりになっている部分があって議論が進まなかった部分があるので、ここはやはり第2グループ、第3グループはもう既に始まっていますけれど、どういうふうにしていけば住民の方としっかりと本当の意味で意見交換をしながら前に進んでいけるか、対立ではなくて協調という形ができるかというのは、非常に課題ではないかなと感想としては持っています。

○吉方明美委員長 今回の形は教育委員会と地元関係者との間が合掌立ちになりながら強引に進められているような気がする。そこをお互いに理解し、歩み寄れるところは歩み寄って、この間、部長の言葉からすると若干和らいだかなという気はしたのですけれど、そのあたりに気を付けながら執行者はお互いに子供たちのために思ってやっていることなのだから。ただし、子供たちのこともありつつ、その子供たちを育てているのは地域も含めてということにももう少し配慮しながら執行者も進めてほしいという気がするのだけれど。

○徳永泰臣委員 栗田の件が一番だと思うのですが、あれだけ要望書と陳情書を出された中で一生懸命考えられていたのに、いきなり新聞報道であんなことが出た。頭ごなしに新聞発表をしたのでは、これからも反発が出ますよ。教育委員会や執行者のやり方はもう少し考えてやってもらわないと。市民の話聞きながら、これは当然のことだと思うので、その辺は十分に意見として、提言として言わないといけないのではないかなと思います。そこをないがしろにしたら、それは誰でも頭にきますよ。

○坂本義明委員 計画どおりやるつもりでいるのだろうけれど、旧庄原だけのことをお話しすると、極論とすれば、あのまま見ていたら最後には庄原小学校だけにすればいいではないかというような、あそこだけ規模を大きくして全部集めたらいいということになるのではないですか。川北を持ってくる。高を持ってくる。例えば、高は永末を生かして永末に持っていかうかいうようにするのならわかるけれど。板橋へ峰田が行くのか。あとはほとんど庄原に持って来るようになる。私たちが言っているのは、東などは何十人か庄原に来ている。ことしからうるさくなつたと。認めなくなつた。だから自治振興区と学校区がごちゃまぜになって、自治振興区は東、小学校は庄原、子供会は2つということになって、おかしなことになっている。それをいろんなところでうるさく言ったから、少しやかましくなって来られなくなつたと。ぐずぐず言ったら今まで通っていたが、通らなくなつたと聞く。だからそこをきちんとしておかないと、もともと促進住宅などはこちらに来ていたが、いつの間にか戸郷などは庄原に来るようになったので、三日市も一部は理由を付けさえすれば来られるということがあって、それでは全部こちらに持ってくればいいではないかという話になる。昔の話だけれど、庄原中学校が一つになって、8クラスくらいになった。それは極論だけれど、ああいう感覚になってしまうのではないか。何もかも庄原に持って来るのなら、放課後児童クラブにしてもしっかりしたものを建ててもらわないと、あのままではうまいこと言い訳しているが、実際には子供を全部見るということになったら間に合わないと思う。極論だけれど、本当に一つの学校に持って来るような感覚で話をしている。東城がいい例ではないですか。全部東城小学校へ行くようになった。庄原も板橋がもういっぱいなのにまた持ってくると言うが、建て替えるという考えもないだろう。そうすると板橋は狭いから庄原へととなってきている。そのあたりもしっかり話を、きちんと板橋の地域の人は板橋へ行ってくれと。それで板橋がもたないのなら学校を建て替えるとか計画を出してやらないと、狭いところに行けないという感じで庄原へ行く。庄原のほうが設備がそろっているし、いろんなものがそろっている。そういう議論を一つもしていない。庄原と板橋とはそういう認識はあると思うのですけれど、ほかの地域におられる方はそこまで思っていないかもしれない。

○吉方明美委員長 振興区と学校区が別々ということ。私も昔、促進住宅に住んでいたのだけれど、私の子供は庄原小学校に行っていたが、振興区で言えば東なのですよ。あそこは何か変な感じではあった。経験している。

○坂本義明委員 地域の運動会は東で子供の運動会は庄原とか、そういうことがいっぱいある。

○吉方明美委員長 行政が整理してほしい。西城でも大佐は目の前に美古登小学校がありながら西城小学校エリアなのですよ。昔からおかしかった。

○徳永泰臣委員 でも目の前の美古登へ行くという大佐の子はいなかったよね。

○吉方明美委員長 課題を残しながら学校の統廃合というのはずっと引きずるようになりそうです。

○坂本義明委員 教育委員会の関係だけでなく、例えば自治定住も含めて、他の執行部も含めた意見もここへ来てもらって聞く必要もあるように思う。私は東のことを特に言ったけれど、板橋などはむちゃくちゃになっている。そのあたりをどのように考えているのかを自治定住課とも話をする必要もあるのではないか。教育委員会だけの問題かなという思いがある。

○吉方明美委員長 根本を言えば、学校区と振興区のエリアがばらばらで統一性がないからああいうことになっているのだと思う。板橋エリアから庄原小学校へ大きい国道を渡って来ていると校長先生も言われていた。板橋の校長先生が前に、うちの学校へ来ないといけない子供が国道を渡って庄原へ流

れて行っているということ聞いた。それはそれで執行者に考えてほしいことですね。

- 徳永泰臣委員　　そこまで話を広げていたらこれができないから、それは置いておいてとしないよ。
- 坂本義明委員　　議論として話をしているわけで、それは切り離してもいい。
- 吉方明美委員長　　これはこれで、そういう矛盾もあるのだということですね。
- 谷口隆明委員　　この中でいろいろ議論していませんが、議会で私はいろんな考え方を言っているのですけれど、今皆さんが言われていることは、結局は計画を立てる段階でそれぞれの地域の声を聞かず、決めてから御理解を求めるというやり方になるから、文科省の手引などでもきちんとして地元の意見を聞いてから計画を立てましょうというのがあるのにできていなかったのが一番問題ではないかなと思います。ですから、今から第2グループ、第3グループをどうやっていくかということですが、もうそれは教育委員会としてははっきり形が決まって、これに御理解を求めるとのことなのでいつまでたっても矛盾する。だから、そういういろんなつまづきが出てきたので、もう一回関係地域の声を聞いてどうあるべきかということを議論すれば一番スムーズに行くと思うのですけれど。最初から10年で鑄型にはめて計画するのはどこを見ても余り例がないのですね。だからそこが一番根本の問題でいろんな問題が起こっているのではないかなと思うのです。
- 坂本義明委員　　そもそも論ですよ。議員になる前に旧庄原では庄原と板橋と東にするような話が教育委員会の中でできていたように聞いていた。そのとおりにされていると元教育委員会にいた人は言われている。それがわかっているならもっと早くにみんなに周知しておくべきだろうと思うし、役所の中でわかっているだけでは市民には理解できないところがあるだろう。
- 吉方明美委員長　　要するに、計画ありきでその計画へ近づけるために強引に進めていこうということについて、もっと地元の意見を聞くべきではないかということですよ。第3グループのところまではもう計画はできているから。
- 五島誠委員　　計画があるのですけれども、これからのことを考えていくときに、少なからず今のスタンスの説明会等のやり方ではなかなか前に進んでいくことができないのではないかなとすごく思います。確かに計画もある。一つの意見としてはそれもあるのですけれど、そこにある種固執しすぎているというか、もう少し柔軟にやっていく必要もあると思うし、いろんな議論をする中で、この計画どおりのほうが確かにいいねとすつと腹に落ちていただければ前に進むことができますけれど、そういうふうになろうと思うと計画のトーンを少し落とすというか、この計画があるけれども、それを踏まえてもう少し一緒になって市民の方だったり、特に保護者の方だったりあるいは子供の意見だったり、柔軟に話し合いをしていくようなスタンスをとっていただきたいなというのが本当に思います。今のままでは対立の構図という格好になっているので、そこは何とか打破していただきたいというのが大きな思いです。
- 谷口隆明委員　　確かに子供の声が全然聞かれてない。この前の山内の振興区だよりも、子供が今、山内小学校をどう思っているのか。小学校のよさとかいろんなことを長い作文に書いていた。そういう考えをしっかりと持っている子供の声も聞くようなことは確かに必要だ。それと地域の皆さんの声を聞くことも大事ですけど、そういう全体の声を聞いて進めると計画のトーンを落としてしまうということもあるけれども、私はもうここまで来たらその計画は一旦チャラにして、教育委員会は多分そんなことはできないでしょうから計画はあるけれどもということになるかもしれませんが、このままでいけば、今、小奴可でも反対すると言われてるし、山内でも反対すると言われてるし、本来

は行政と市民が一緒にまちづくりをしないといけないのに変なあつれきになってしまっはいけないので、そういう意味では御理解を求めたほうがいいのではないかなという気がしました。

○徳永泰臣委員　私も同じ意見で、やはり計画を白紙にするというのは難しいとは思いますが少しトーンを落として子供の意見、保護者の意見、地域の意見も聞いて進めないと、とても計画どおり進めないと私は思いますので、もう一回そこら辺をやるように提言をしたほうがいいと思います。

○吉方明美委員長　前に田森自治振興区へ委員会として行って、地域や保護者の声をいっぱい聞かせてもらって帰ったことがありましたよね。あのときの熱というか、自治振興区の役員だけとか保護者会の役員だけとかの声ではなくて、やはり地元に行って丁寧な説明と地元の生の声をもっと聞く必要があるのではないかなと私は思う。あのときすごい熱気を感じたから。

○徳永泰臣委員　ましてや、今度第3グループに中学校ということになると今以上に厳しいものになってくると思うので、しっかりと子供の意見、保護者の意見、地域の意見を聞きながら進めていかないと、とても計画どおり進まないと思います。

○吉方明美委員長　坂本委員、ほかにはいいですか。

○坂本義明委員　子供の意見を聞いたけれど、適正配置で動く対象の子供が言うのならわかるけれど、例えば2年先に適正配置で子供が動くではないですか。そのときにもう5、6年生は中学校に行っているからいない。そういうのがかなり出てくる。むしろその学校に行こうと思っていたところ、例えば、保育所に行っている保護者の意見をしっかり聞きながら、特に口和はそういうことがあったと思うのですが、そのあたりの意見をしっかり聞いてあげないと、本当は教育に対して誰が一番影響を受けるかと言えば子供なのです。本来は子供を中心に物事を考えないといけない。確かになくなったら火が消えるのはわかる。それから何回も統廃合で学校がなくなって、山内は特に水越がなくなり山内がまたなくなるという地域住民の感情はわかるけれど、それにずっとこだわっていたら物事は前に進まないし、何のために教育をするのか。子供のことをしっかり考えてやらないと、将来、子供がどうなるかということと言うのは、教育委員会について言うわけではないけれど、本来はそちらが中心の議論だろうと思います。

○谷口隆明委員　何のために教育するのかというのはいろんな考え方がある。今、教育委員会はそういう考え方で教育をすると言っている。なるべく大人数で切磋琢磨して21世紀の社会を生きていく子供たちをつくらうと言っております。一方では、そうではなく小さい学校でも地域に残して、一人一人の子供の個性が輝いて、責任を持って、やはり大人数になればしっかりした子はどんどん進むけれどもあとは任せて下がってくる子も多い。人数が少なくなれば全員が責任を持っているんなことに取り組めて、結局はみんな力がつくということもあるので、議会で教育論に入るのは非常に難しいですけど、今の教育委員会が言っている教育論が本当にいいとは思わない。県教委の平川さんが一生懸命言われている教育内容というのはそういう大人数ではなくて、それぞれの子供たちの特徴を生かそうという教育なので、今、坂本委員が言われたように、何のために教育するのか。いつまでも残っていたら子供たちは大変になるのではないかなという意味であれば、逆の考え方もあるのかなと。

○坂本義明委員　言葉のやりとりだからそう取られたのかもしれないけれど、もう一つ、中間の話をすると、今、第3グループの中学校の話を出したから、中学校と小学校が一緒にあって、その地域に必ず残って、中学校と小学校の連携もありながら、その地域ながらの方法も実際にあるわけだから、それも一つの選択肢として視野に入れるべきだろうという意見は大事だと思う。ただ小さいから消して

しまえという意味で言っているのではなく、子供のためにはどういう教育がいいかということは谷口委員の考え方と私の考え方は違うと思う。みんなと競争しながら勉強するのも一つのやり方。お互いに助け合いながらやっていくのも一つの教育の方法。教育は勉強だけではないということを谷口委員が言われているのだと思う。それはわかります。だから中間点の考え方もあるのではないかと意見を言いたい。

○五島誠委員　子供にとって、選択肢がもう少しあっていいのかなど。例えば、基本線としてはもう少しある程度大きな規模でやっていくのがいいだろうと、庄原の教育委員会は割とそういうスタンスで進められていますけれども、なかなか大人数のところではなじめない子がいるのもまた事実でしょうから、そういった子はどうすればいいのか。そのほかの選択肢はないのかということになると、現在、庄原市の中ではなかなか校区を変わるかとかいうぐらいのことしかないというところもあって、以前、この委員会でも見に行かせていただいた島の小中学校のような例もあるわけで、考え方によっていろんなやり方で選択肢をつくっていくことができるのではないかなどすごく感じます。逆に規模の小さいところだと人間関係が難しくなって、それなら大きいところのほうがなじめる子ももちろんいるだろうし、先ほど学区の話が出ていましたけれども、この学区もどうしたほうがいいのか。人の考え方によっては学区をなくしてしまっただけで選択制をとれるようなやり方も一つの考え方だと思いますし、そうすることによって学校と地域との関係とかにまた違った課題が出てくるだろうと思うのですが、そういったいろんな要素がこの課題には含まれているので、現在進められている人数だけでやっていくというやり方はなかなか理解が得られないだろうと思います。また、はっきりと言うと個人的には中学校の合併には反対なのです。ただ、なぜ反対かという、中学生の教育のスタイルがかなり大きく変わっていくだろうなどというのが、今回のコロナの関係などにしてもオンラインで授業が受けられるわけで、そうなったときに教員のあり方、役割とかもまた5年後、10年後になってくると変わってくるのも事実だろうと思うし、本当にいろんな要素を考えながら、中学校で言いますと10年前に立てた計画どおりに進んでいくけれど、社会状況がこの10年で変わっていくのも事実ですから、繰り返しになるけれど、もう少し教育環境の中で人数とかだけではなくて、いろんなことを地域の方や行政なんかも一緒になって、これからの教育環境をどう進めていくのかについてはもっと議論だったりあるいはいろんな勉強だったり研究だったりとかというものはもっと進めていく必要があるのかなど強く感じます。それともう1点は、やはり教育委員会だけでやっている、中間報告のときの提言にも申し上げましたけれども、なかなかそれ以降の動きが変わっているかと言えば変わっていないものですから、やはり再度、市長部局がもっと一緒になって考えていかないといけないのではないかなどということは改めて伝えていかないといけないのかなと思います。うちの委員会の個人的な反省も含めてなのですが、この間、いろんな形で議論をさせていただく中で、例えば、学校が一緒になることによって財政的にどういふ変化があるのかであるとか、イメージではわかっているのですが、学校が一緒になることによって教員の配置がどう変わってきて、例えば、教員の不足についての話を県教委に聞いたこともありましたけれども、そうした中で本当に学校が一緒になることによって優位になっていくのかどうかとかいうところの部分については個人的にも勉強不足だったなと思うし、なかなかそういった議論ができなかったなということは個人的な反省です。

○吉方明美委員長　県教委に行ったときの答弁では、統廃合をせずに小規模でやっていくところについても教員はきちんと配置するという答えがあったと思うのです。今、国は35人学級を進めると言っ

いるけれど、そこで一生懸命難色を示しているのは財務省、やはりお金の問題。子供のことでなく、お金のほうで国のほうでも予算配分がなかなか少ないみたいな感じです。

○谷口隆明委員　この前の討論で言いましたけれど、これからGIGAスクール構想ということで教育環境も全く変わってくるのです。だから前も言いましたけれど、小林県議も県議会でこれだけ情報化が進んでくれば小規模の学校だって十分大きいところと対等にやりとりできるのだから、そんなに学校をなくさなくてもいいのではないかという一般質問を平成29年12月だと思うのだけれどされました。やはりそういう考え方が広がってくると思うので、今の基本計画が本当に、先ほど五島委員が言ったように、人数だけではなくて、そういう教育環境の変化も踏まえたものにしないといけないということ。それから、確かにこの委員会では財政の勉強をしなかったことは本当に反省点なのですが、これまでの統廃合でその都度財政についていろいろ検討していますよね。そしたら、まず交付税が一学級当たりとか、一校当たりとかそういうものがなくなったら、多分5、6千万円はなくなると。先生の給与は市が特別に採用しているもの以外は全て県の予算なので、結局は歳入が大幅に減ると。しかし、スクールバスの費用はほとんど補助がないので統廃合することによって市の財政は大幅な赤字になると財政当局が言っているから、そうしたことについては確かに全然この委員会ではやらないで、教育環境の整備ということで本当は総務でもやるようなことかもしれないが、それは確かに全く視野から外れていたというのはおっしゃるとおりだと思います。

○坂本義明委員　全くしなかったということそのままで済ますのではなく、そういう数字が出るのなら出してもらえばいいではないですか。どれだけ違うかを持っていないと、僕たちも説明するのに、教員の給与は県から出るのでよと言え、市民もえーとかいう感じですから。人件費を削るために統廃合をしているのかと言う人もおられる。だからそのあたりもはっきりつかんでいないと、これだけ負担がふえるとかこれだけ負担が減るとかということがわからないわけだから。一番肝心の議員がわからないようでは。

○谷口隆明委員　平成22年とか平成23年の議会の議論の中で、統合すれば市にとって財政的には決してよくなないと答弁はされています。だから今度の場合はたくさんの学校なので、その影響が非常に大きいと思うのです。それは財政当局に言えば資料はつくってくれると思います。教育民生で管轄外ということになれば別ですが、それは教育委員会を通して財政がどうなるかを聞けばいいのでは。

○吉方明美委員長　教育委員会を通して資料請求をしましょうか。

○坂本義明委員　請求して、ある程度大ざっぱな数字でもいいから把握しているほうがいいと思います。

○吉方明美委員長　第1グループが統合した場合としなかった場合との比較。今まで教育委員会が地元説明をしていく中で、財政のことは全然言わずに子供たちが切磋琢磨して成長するということばかりが強調されたような気がする。そこは不十分だったかなと思う。

○徳永泰臣委員　教育委員会を通して要求するといっても、自分たちに有利な数字を出してきそうな気がとってもらいます。

○坂本義明委員　教育委員会を通す必要がない。

○吉方明美委員長　議長を通して出してもらえばいい。

○五島誠委員　同じく人的配置の、県が県費で教員の給料を払っていますが、学校がなくなって、例えば口和なら2校が1校になって、教員配置が全体的にはどう変わっていくのかということも何か資料があるのではないかなと思うので、特にちょうど県の教育委員会でも教員の配置のことについて

ては今、ほとんどもう終わっているところではないかなと思うので、そういった資料もいただければうれしいなど。

○吉方明美委員長 県へも資料請求するということですか。

○五島誠委員 市の学校のことでですから、もちろん市の教育委員会を通してです。

○吉方明美委員長 資料請求をします。

○近藤久子副委員長 3つ、7月31日のところであったのですが、この課題には教育の課題と人口減少の課題が包含されている。市長は、課題解決するため積極的な行動をとられるように強く求める。2番目、教育委員会は、上記の当委員会が出された意見などを踏まえ、保護者・地元関係者の声に耳を傾け、十分協議されるように強く求める。3つ目が、教員への負担が増加する中で、教員の働き方改革を推進し、働きやすい環境づくりに努力していただきたい。この3つはもう出しているわけですね。だからそれプラス今回皆さんが出された意見を追加するような形になると思う。私はもちろん個人的な意見を言ってもいいと思うのですが、広大付属東雲小学校へ行ったときの複式学級のあり方、それと美古登小学校へ行って複式教育を見て、校長先生の本音をお聞きする中、先ほど坂本議員が東城も云々ありましたけれども、例えば15も16もあった小学校が減ってきたのは、子供たちの数が千鳥小学校であれ始終小学校であれ、子供たちにとって教育がなかなか難しい環境になったということで再配置になってきたということその当時もしておりましたからその流れはやはり認めていただきたいと思うし、今、大人数と言われましたけれど、大人数の学校が今存在するのかなと。もちろん大規模校もありませんし、今、庄原市に子供たちが何人生まれて、その子供たちの教育を考えたときにどうなのだろうかということを考えてのことだろうと思うのですが、皆さんが今、御意見なされたように計画を白紙に戻せとは言わないけれども、さらにこれまで以上に子供たちの声、就学の子供を抱える保護者、地域の方々を十分聞きながら進めていくべきではないかと集約されると思うのですが、財政的なことについては抜けていた部分もあるので、そういうことも我々が勉強する範囲の中で資料請求しながらやっていけばいいかなと思うのです。大変残念ながら、子供たちがどんどんふえて大規模校になっていく見通しはありませんが、だからといって地域の中の学校の存在がどういうものなのかは地域の方々を私たちも本当によく聞く必要があるだろうし、教育委員会にも受けとめていただきたいと私は思います。さらに、私の夫が教員をしておりましたし、いところが栗田小学校の校長で最後終わったものですから、いろんな御縁があっような教育をいろいろ耳にして、複式の同級生が1人とか2人とかいう学校での教育、子供たちの気持ち、親の気持ち、そういうものもしっかり受けとめてきたつもりでありますので、皆さんの中で計画白紙に戻せということではないということを確認した上で、先ほど来申し上げているように、今まで以上に丁寧に地元、保護者、子供たちの声を聞きながら進めていくべきではないかというまとめになると思います。

○谷口隆明委員 私は白紙に戻すのが一番だと思うのですが、この委員会とすれば、それはとても合意できないのでという意味で言ったのです。私はいつも本会議で言っていることをおろしたわけではないので、それは確認の意味で言っておかないと皆さんに誤解されては困るので、これだけ教育環境が通信も含めて変わってくる中で、前提が違ってきていると思います。だから、私はやはり一旦白紙というか、再検討すべきではないかなという気はしています。それと、これまで再配置してきたのも、明らかにもう20人を割ることがずっと続く中で、これでは大変だということで再配置してきたわけで、これまで言ったように、まだ50人とか60人のところも含めて再配置の対象にするということはいさ

さか行き過ぎではないかなと。それは確かに10年後には減るのかしれないけれど、それはその時点で地域で話し合うということが今までのルールだったのに、あらかじめこう減るだろうから50人のところも40人のところも再配置計画に上げるということが、という意見は最初から一貫して持っていますので、そのことは個人的には伝えておきたいと思います。

○五島誠委員 異論があるわけではないのですけれども、そのとおり絶対しないといけないという計画なら私も完全に反対なのですけれども、そうではなく進めていっていただきたいと思っていて、逆に言うと、20人、30人になってから議論しているようでは遅いかなと思います。ある程度人数がいるときから、それはするしないは別ですが、結論ありきでする議論ではいけないと思うのですけれども、そのぐらいのときからこれからの見通しの中で、この地域の教育環境をどうしていくのかということ、対立ではなくて、何度も言うけれど、きちんと協調できるような形で議論をしていく必要があるのだらうと思うので、人数が少なくなってから議論というところは賛同しかねるかなと思います。

○谷口隆明委員 当然、議論は今からしていくのですけれども、私が言いたいのは、そういうことを見越して既にその計画に上げてこうだと、教育委員会でも第2グループは、山内にしてもどこにしても人数がいるのに既にその対象として話し合いをするわけですから、言いたいのは、常に教育について今後どうあるべきかということは考えていかないといけないけれど、本当にその地域の皆さんがこの学校をどうしましょうかということは、そこまで究極になるのはもっとその次の時点だと思っていて、今の段階でもう統廃合しますと決めてしまえば地域から反発が出てしまうので、この計画のあり方が10年スパンで最初からやるということが問題を起しているのではないかな。それぞれの学校で自分たちの教育をどうするかということは常に話し合っ、例えば30人でもその地域でもう私たちは行きたいという要望が出れば話し合っ、いけばいいと思うのですが、頭からそういう計画を示したということが問題ではないかという意味で言っています。私があえて言ったのは、東城町のときは20人を割って専任の教頭先生がいなくなるような事態が想定されたら地域と話し合いをしましょうということで、そういうことを想定して何年か前から話をしていく中でそれぞれの地域で違いますけれども、最終的には統合やむなしということになっていたのです。全く最初から議論してはいけないと言っているつもりではないのです。

○五島誠委員 思いは一緒なのではないかなと思います。やはり結論ありきではだめだと思う。結論ありきで議論を進めていくと、なかなか難しいということが共通の認識なのではないかなと思います。

○近藤久子副委員長 教育委員会がそれぞれの地域へ出向いてまず話をされたときに、ものすごい反発があるというか、それぞれの御意見を聞かれていると思うのです。それだけ再配置はそう簡単に進むものでもないし、地域ごとに条件が違う。それと、地域ごとにこれまで再配置を繰り返した歴史も違うというところがあると思います。先ほど委員長もおっしゃったように、部長の意見の中で絶対に進めるのだということではなくてということもありましたので、それは実際に声を聞かれる中で心に響いた言葉もいろいろ受けとめられているのではないかと思います。最終的に条例が出てくるまでというのは口もとそうなのですが、何回も繰り返し議論を重ねて初めて導き出される結論ではないかと思しますので、強引な手順ではなくて、そういうことを我々は求めるということによろしいのではないかと思うのですけれど。

○吉方明美委員長 今、副委員長の言葉で大体まとまったような気がします。要するに、地元の声をもっと丁寧に聞いて、計画ありきで強引に進めるべきではないというところ。もう既に第1グループに

については納得して統合に賛成の地域もあるし、形は違っても新たな学校ということで校名まで変えてやったというケースもあるし、いろんな形があると思うのですが、そこら辺については執行者も十分理解されているので、今後についてそこら辺は柔軟な対応がされると思うところです。したがって、地元の声をよく聞いて、納得した上で進めていかれるようにということを提言でまとめたいと思います。

○五島誠委員　言葉のニュアンスのところなのでそんなにこだわらなくてもいいのではないかと問われたらそうなのですけど、こだわりたいのが、地域の声をよく聞いて教育委員会を進めるようにというのは確かにそうなのですけど、僕が教育委員会に求めたいのは、地域の声を聞くだけではなくて、地域の方と一緒にやってつくり上げていただきたいということがあって、ともすれば、確かに聞くのは聞きましたで終わっているケースも正直今までの流れの中ではある。ニュアンスの問題なのでそこは同じ意味ではないと問われたらそうかもしれないですけど、やはり今度一緒にやってつくり上げていっていただきたいというのが、特に口和小学校のところにかかわったりした中で感じました。

○吉方明美委員長　五島委員のおっしゃるとおりだと思います。地域とともに新しく学校をつくっていかうということを執行者にもしっかり心にとめていただきたいということで。

○近藤久子副委員長　対立ではなくて協調であるとか共同であるとか、一緒にその学校をつくり上げていくとか、そういうことが口和の先進事例でも出てきたと思うのですよね。それは参考になるのではないかと。悪くなるのではなくて、子供たちの教育の場をよくするための再配置となるように共通的な認識が必要ではないかと思います。

○吉方明美委員長　ほかに何か補足することがあれば、全体の意見をまとめて提言していきたいと思いますが、よろしいですか。文言については副委員長と相談しながらつくらせてもらっていいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○吉方明美委員長　また皆さんに目を通してもらいたいと思います。

○谷口隆明委員　まとめ方で、委員会の中間報告はしているけれども、簡単でいいのでこの2年間の調査の経過とその結果を受けて提言とか今議論したことを入れたほうが全体のまとめをきちんとあとに残すという意味で、中間報告を見たりあれを見たりしてくれと言うのではなくて、この委員会が2年間で総体的にはこういうことをやったのだということがわかった上で今のような議論を出したほうが全体のまとめになると思う。文字は残っていると思うので、きちんとまとめをすればいいのではないかと思います。

○吉方明美委員長　その都度の会議の中身までは書かなくても、時系列でいつ何をしたかという程度できょうの分をポイントに最後にまとめる形ですね。

○谷口隆明委員　やはり2年間のまとめをするならそのように一目でわかるようにしておいたほうが、後々、この委員会が2年間でこういうことをしたということが見えたほうがいいのではないかなという思いがします。

○吉方明美委員長　そのようにまとめさせてもらいます。この件については以上で終わりたいと思います。引き続き、この間決めた次の段階のまとめなのですが、児童福祉課の日程が1月15日の午前中は難しいと言われていましたが、向こうの都合をどうにかやりくりして15日に入れてもいいよという答えをもらったので、児童福祉課の分は15日の午前10時からでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○吉方明美委員長 そのつもりで皆さん予定を入れておいてください。それでは休憩に入ります。

午前11時00分 休 憩

午後0時4分 再 開

○吉方明美委員長 再開します。というのが、先ほどの委員会の中で皆さんから出ました資料請求の件ですけれど、教育委員会に出せるものかどうなのかということを確認した上で正式に資料請求をしたいと思いついて尋ねたところ、財政のことについては今すぐ出せるものはないと。改めて比較をしたような資料をつくる必要があって時間がかかるということと、教員の配置で教員の数については今すぐ出せない。

○丸飯龍太議会議務局主事 基本的に委員会で資料請求をするときには、執行者が持っている既存の資料を請求することになります。今、教育部長に確認したところ、財政のことについて出せるものは準備ができていない、教員の配置については県教委に確認しなければいけないので、現在は推計でしかなく、すぐ正式に回答できるものがないということだったので、今回、二つの資料請求は難しいと思います。

○吉方明美委員長 ということです。

○五島誠委員 資料請求が難しいようだったら来てもらって話をさせていただく以外には手はないので、またいつか日程を調整していただいて委員会にお越しいただくしかないのではないですか。

○坂本義明委員 情報を集めるのに資料がないのなら話を聞くしかないというのは当然。それ以外ならあきらめるしかない。

○吉方明美委員長 財政のことについて資料は出せるものはないが、来て説明するのならできるのか。

○丸飯龍太議会議務局主事 そうですね。どうしても資料という形で出すとなると内部で決裁とかの問題が発生してきますので難しいかと。

○吉方明美委員長 では説明をしてもらおうということで。今の2点、財政面と教員数のことでまた日程調整させてもらっていいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○吉方明美委員長 口頭で説明を受けるということで。では、本日の常任委員会はこれで終わります。

午後0時7分 閉 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長 吉方明美